

1 学習テーマ

地域の絆を考える ～防災に関する意識調査から～

2 学習目標

- 自分や他の人の価値観，考え方を大切にしようとする意欲や態度を養う。
- お互いの違いを認め，受け入れることができる人間関係づくりを行う。
- 相手の身になり，心を傾けて聴くなどのコミュニケーション能力を高める。

3 本教材の特色

- 防災意識の高まりだけではなく，地域の絆の大切さについて再認識できる。
- 身近な題材で自分のことや住んでいる地域のこととして考えることができる。
- 育ってきた環境，置かれている立場等により回答が異なるため，様々な価値観にふれることができる。

4 準備物及び会場図

<p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート（2種類） ・解説編（2種類） ・ホワイトボード 	<p>各1部 各1部 2台</p>	<p>会場図（各テーブル4名）×5テーブル</p> <p>○ 講師・発表者・ファシリテーター</p>
--	---------------------------	--

5 学習展開（90分）

流れ	時間	学習活動
導入	20分	<p>（開始時，参加者には自由に席に座ってもらいます。4人一組で着席。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三つの約束を確認します。（平等な時間配分・肯定的に聴く姿勢・守秘） ○ アイスブレイクを行います。（10分） <p>【※ワークシート『避難時に持って出るもの』を配付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 現在，防災への意識が非常に高くなっています。今日の研修は，その防災に関する意識調査を通して，「地域の絆・つながり」について改めて皆さんで考えていただこうと思います。 ◆ さて今お配りしたシートを御覧ください。（はじめの2行を読む。）避難時に持って出るものについて，まずは一人で考え，ワークシートに記入してください。（2分） ◆ 自己紹介を兼ねて，個々の意見を発表し合い，それをシートに記入した上で，グループとしての意見をまとめてもらいます。（8分） ◆ グループとしてどのようなものがあげられたのか発表してもらいましょう。（2～3グループに発表してもらおう。）（6分） <p>【※「解説編」シートを配付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 参考までに総務省が提唱した「持ち出し用防災グッズ」をお配りしました。日頃から災害への準備を行うことは重要です。改めて個人で考えたもの，グループで考えたものと比べながらグループ内で振り返ってみてください。（4分） <p>○ 進行役，書記役，発表役等を決めます。（一人一役になるようにします。）</p>

<p>展 開①</p>	<p>5分</p> <p>20分</p> <p>10分</p>	<p>○全員にワークシートを配付します。 【※『防災に関する意識調査のデータを用いたワークショップ』を配付】 ○まずはワークシートを使い、一人で考えてもらいます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ みなさんにお配りした紙に、防災に関する七つの項目が書いてあります。「もし自分が自宅で被災した場合誰が助けられると思いますか」という問いに対して自分の考えに近いものから順番に番号をつけてもらいます。「あなた」の欄に書いてください。その際に、それぞれの項目について「自分はどのような理由や基準でこの順番にしたのか」など、その時に自分で思ったことや迷ったこと等があれば、下の四角に自由にメモをしておいてください。(5分)</p> </div> <p>○次に、グループの中で意見交換をしましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 個人で考えた順位をグループ内で出し合ってもらいます。《メンバーの名前》欄に各メンバーの名前を記入し、それぞれ選んだ順位を記入していきましょう。その後、最終的なグループとしての順位を決めてもらい、一番右の欄に記入してください。</p> <p>◆ その際、意見、気づき、感想等をしっかり出し合ってもらい、記録係の人はそれをメモしておいてください。一人で考えた時に迷ったこと、感じたこと、グループで考えた時に答えが違っていった点などについて、それぞれの理由や考えを自由に出し合っただけだと思います。後ほど各グループから発表してもらいます。(20分)</p> </div> <p>(※ファシリテーターはホワイトボードにあらかじめ表を書いておく。)</p> <p>10分 < 休憩 ></p>
<p>展 開②</p>	<p>25分</p>	<p>○グループで出された意見について発表してもらいます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ なかなか意見が統一できなかったかもしれませんが、グループでの話し合いの結果、7項目がどのような順番になったか、また、(話し合いの中で出た)気づきや感想、意見等について発表してください。</p> <p>◆ 1グループ3分をお願いします。</p> </div> <p>(※ファシリテーターはホワイトボードに表を書き、各グループの順位一覧が分かるようにする。)</p> <p>(※もう一つのホワイトボードに、気づき・感想を簡単に書く。)</p> <p>(※時間厳守で行うこと。キッチンタイマーなど音の出るものを使う事で、より効果が上がる。)</p> <p>○全員に「アンケート結果」を配付します。 【※『防災に関する県民意識調査』を配付】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 実際の集計結果をお配りします。これが正解というわけではなく、あくまで参考ということで御理解ください。少し時間をとりますので、先程各グループの発表を聞いて思ったこと、感じたこと、また集計結果を見て感じたこと等を自由にグループ内で出し合いきましょう。(5分)</p> </div> <p>(※進行役は特に感想をまとめる必要はないことを伝える。)</p> <p>○自分を振り返り、感想を出してもらいます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 集計結果や他のグループの感想等見られて如何でしょうか。簡単でけっこうですので、感想を出していただけたらと思います。(※2, 3名の参加者にインタビュー形式で感想を言ってもらう。)(5分)</p> </div> <p>(※ファシリテーターは発表に対し簡単なコメントを返す。)</p>

まとめ	3分	<p>○最後に、ファシリテーターによるまとめを行います。</p> <p>◆ 今日のワークでは、個人やグループで考えることで、これまでの自分を振り返ったり、これからの自分について考えたりするきっかけになったのではないのでしょうか。</p> <p>お配りした（別紙）アンケートの結果からもわかるように、4分の3を超える人達が災害時に「消防（団）や警察から救出してもらえと思う」と回答し、公的機関からの救助を期待していることがわかります。しかし、「阪神・淡路大震災」（H7.1.17）では、要救助者のうち公助※により救われたのは全体の2割程度で、8割の人は近隣住民などによって救出されたという結果になっています。そのため、災害時の公助には限界があるため、日頃から自助※と共助※の重要性について考える必要があります。</p> <p>今後は地域において、災害時の協力や「災害時要援護者」への支援体制について話し合うことで、相手の立場を理解しあい、お互いの人権を尊重し、安心して暮らせるまちづくりについて学習していく事が大切です。</p> <p>併せて近年、少子高齢化や核家族化など人と人とのつながりが薄れてきている中で、改めて「地域の絆」の大切さについて振り返ってみませんか。あなたが住んでいる地域ではどんな行事があり、住民同士の付き合いはいかがですか？</p> <p>地域でふれあいながら過ごす当たり前のことが、実は「人権が尊重される地域」を創ることにつながっているのです。</p>
ふりかえり	7分	<p>○ふりかえりシートを全員に配付します。</p> <p>○各自で記入後、グループ内でふりかえりを行います。</p> <p>◆ 最後に今日の学習全体を通して、気づいたことや学んだことを「ふりかえりシート」に簡単に記入し、グループ内で出し合ひましょう。</p> <p>○お互いの今日の頑張り、成果を分かち合うために拍手をします。</p>

〔用語説明〕

- ※ 自助 …自分自身で身を守ること
- ※ 共助 …個人之力では困難なことを、近隣住民やボランティアなどによる自主防災組織など地域で協力して行うこと
- ※ 公助 …市町村、警察、消防など公的機関が行うこと

避難時に持って出るもの

いつ起こるかわからない自然災害に対し、日頃から非常時の備えを確認しておきましょう。もし大きな災害が発生したと仮定して、あなたならどんな物を持って避難しますか。

※まずは、一人でお考えください。（2分）

個人用シート

1. 徒歩で避難するとしても、持っていく物がたくさん思いつくはずですが、
その中で、優先して5つだけ選ぶとしたら、どんな物を選びますか。下の欄に書いてください。

--	--	--	--	--

※次に、グループになってください。（8分）

グループ用シート

2. 避難するときに選んだ5個を、グループ全員で発表しあって、下の表に書きましょう。

	あなた	メンバーの名前			グループの考え
持 っ て い く も の					

解説編：

【総務省消防庁 防災グッズの紹介より】（出典：総務省消防庁ホームページ）

非常持ち出し袋には、最低これだけは必要です。



印かん，現金，救急箱，貯金通帳，懐中電灯，ライター，缶切り，ろうソク，ナイフ，衣類
手袋，ほ乳びん，インスタントラーメン，毛布，ラジオ，食品，ヘルメット，防災ずきん，電池，水

この他に、携帯電話(および充電器)、身分証明書、家族の写真(離ればなれになったとき、捜すのに必要)、衛生用品、ゴミ袋(バケツ代わり、カッパ代わり)、笛、歩きやすい靴、タオル、ティッシュ・トイレトペーパーなどが考えられます。

防災に関する意識調査のデータを用いたワークショップ

この教材は、平成19年5月に鹿児島県が行った「防災に関する県民意識調査」の結果を参考に作成しています。
 ここでは「順位づけ（ランキング）」という手法を使って、みなさんの素直な考えや思いを共有したいと考えています。
 まずは自分の考えや思いを改めてまとめていただき、他の人との類似点や違いについて耳を傾けて下さい。
 最後に集計結果をお知らせしますが、設問も異なっていますし、一般的な意識の総体でしかありません。正解ということではなく、参考ということでご理解下さい。

あなたが自宅で被災した場合、 誰が助けられると思いますか？	あなた	メンバー名 前			グループの考え	アンケート結果	
						順位	%
市町村役場							
消防(団)や警察							
同居の家族							
福祉施設や医療機関							
地域の自主防災組織等の互助団体							
近隣の住民							
親戚・友人・知人							

順位を付ける際に基準となったことは何ですか？メモして下さい。

あなたが自宅で被災した場合、誰が助け くれると思いますか？	アンケート結果	
	順位	%
市町村役場	5	37.8%
消防(団)や警察	1	75.6%
同居の家族	4	46.5%
福祉施設や医療機関	7	7.9%
地域の自主防災組織等の互助団体	6	26.8%
近隣の住民	2	70.9%
親戚・友人・知人	3	55.9%

出典:(H19. 5「防災に関する県民意識調査」より)

ふりかえりシート



最初の言葉に続けて書いてみてくださいね。

今日の研修を終えて、今の気持ちは
100点満点の

点！

私が気づいたことは、

私が学んだことは、

私がやってみようと思ったことは、